



磐二小だより

磐梯町立磐梯第二小学校
令和7年2月18日
第13号
発行責任者 天野 圭

キラキラとひとみが輝く二小の子ども

【今年は記録的な大雪】

会津地方は記録的な豪雪となった地区もあり、今年の大雪には、だれもが肉体的・精神的にも疲労を隠しきれない年になりました。テレビ等で会津地区の大雪が報道されたことにより、会津以外の先生方より「大丈夫かい。」と陣中見舞いとも思える電話を数件いただきました。学校も3日間の臨時休業という措置を取り、子どもたちも現在は落ち着いております。今週から、再度寒波が訪れるそうです。本当に「常に感謝の気持ちを忘れずに、何事に対しても真剣に取り組みますので、もうかんべんしてください。」と呼びたい気持ちです。保護者の皆様におかれましては、安全な除雪作業、安全な通勤ができますよう、子どもたちへの助言も含めよろしくお願ひいたします。

【令和7年度の本校の教育活動について】

令和7年度の本校の教育活動について、再度具体的な内容について記載いたします。

【教育目標の変更】

変更前 ☐¹ 自己を拓き 共に生きる 健康で品性の高い子ども

変更後 ☐² 自己を拓き 共に生きる **社会性の高い子ども**



【本校合い言葉】

☒ 「キラキラとひとみが輝く二小の子ども」 職員・子どもたち・保護者の合い言葉

【日課表の変更】

変更後 ☐² **2時間目の休み時間前にキラキラタイム**と称し、学力・体力向上に取り組みます。

☒ 委員会活動を週1回実施は変わりないですが、他に週1回集会活動を設け、異年齢交流の機会（代表委員会が考えた集会活動等）を増やします。

☒ 朝の登校時間を遅くします。今より 15分程集合時間を遅くし、7時55分頃までに登校できるようにします。もちろん職員の出勤時刻も遅くし、教頭は 7時30分までに学校を開けるようにします。この内容につきましては、天候や各家庭の実態等、見守り隊の方々との関係もあると思いますので、**今後検討が必要です**。

【自由進度学習への取組】

取組 ☐¹ 今年度3月までに、自由進度学習について職員研修を実施し、4月から教科を選び、自由進度学習に取り組んでいきます。実際に学習形態の1部として捉えていただき、**授業参観等でご覧いただけたら**と思っています。

【2学年合同体育の実施】

取組 ☐² 次年度複式学級でも単式学級であっても、**2学年合同の体育授業**を実施します。少しでも多くの友達と話し合い、運動するよさを味わうことができるよう合同体育を実施いたします。なお、安全面や多様な場の設定を考慮し、先生も**最低2名**で指導します。

【校舎の除雪に感謝】

この大雪で雪が軽い時は、職員で校舎周りの雪かきをしていたのですが、雪が重くなり、危険性も伴うことから手が付けられない状態でした。そこで、教育委員会の方々が視察に見え、先週土曜日(2/15)に、役場職員の方、教育委員会の方、日曹金属化学株式会社会津工場の方々で校舎の除雪をしていただきました。エアコンの室外機部分や児童の安全経路の確保等、たくさんの方々にお世話になりました。ありがとうございました。子どもたちには、児童集会時、たくさんの方々のおかげで、安全に生活することのできる環境に感謝の気持ちをもって生活するようにお話をしたところです。

実際に「日曹金属化学株式会社会津工場 山口総務部部長」さんへご挨拶にお伺いしたところ「いや～、そういうの大好きですから。」と爽やかにご対応いただき、心底脱帽でした。その一言で大変心地よい時間を過ごさせていただきました。たくさんの方々に支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

【子どものさりげない一言に思う】

本校の子どもたちは、素直で前向きな子どもが多く、生徒指導上の問題はほとんどありません。例え、その都度何か間違ったことをしたとしても、何が悪く、どうすればよかったですのかなど、本人のよさを生かしながら、しっかり説明すると素直に理解を示します。これは、保護者始め各家庭の教育力の高さだと感じ、本校の魅力の一つだと思います。

しかしながら、子どもによっては次のような反応をする子どももいます。

まわりの友達が大きな声で挨拶している場面で、

先生：「しっかりあいさつしちゃうね。」

児童：「あいさつしました。」

先生：「相手に聞こえるようにあいさつするといいね。」

児童：「あいさつしました。」

確かにあいさつは、自分の気持ちから発せられることであり、自分なりの表現でもいいと思います。しかし、まわりの友達が大きな声であいさつできたとしたら、声の小さな子どもが気になるのは教師として自然な見取りです。

このように、自分が行った態度を正当化しようとして、もっとできる可能性のある内容から目を背けてしまい、教師の話を素直に受け入れることのできない子どもがいることも事実です。

多分、学校や家庭での生活経験から、自分を守る一つの手段として「～しました。」「やってます。」等の言葉が多くなり、素直な気持ちが負けてしまうのかと思います。さりげない一言ですが、これからも継続して、よい方向にいけるよう助言していきたいと思います。

【校長のひとりごと】

今年の大雪で改めて感じたことがあります。それは道路の除雪の違いでした。磐梯町を除雪してくださる方々は、たいへん上手で冬用のポールが見えるまで除雪してくださいます。しかし、市町村によっては、とりあえず雪をどかし、雪が重くなると排土板を上げ、道路に雪を残していく箇所がよく見られました。捨てる所もない場所では仕方のないことかもしれません。私の父親は、重機オペレーターをしていたことがあります。県道のキャタピラ時代から国道のモータグレーダまで長い間勤務しておりました。父親がいつも話していたのは「ほんの少し運転席から操作すれば除雪ができる。人がやる大変さを考えたら、丁寧に気持ちを込めてやるのが大事だ。」と言っていました。おかげで冬場はたくさんの贈り物が実家にありました。私もホイールローダでボランティア除雪をすることもありますが、いまだに父親の運転技術には勝てません。しかし父親と同じ気持ちをもちながら、除雪をしたいと思っています。最終的には、何事もやはり気持ちなのでしょうか。